



校長室だより

第3号 平成25年11月25日発行

大隅東小学校長 豊田 雅弘

<http://swa.city-osaka.ed.jp/weblog/data/e651424>

「ふわふわ言葉」があふれる家庭、学校に

前回の校長室だよりで、あいさつの大切さを「ふわふわ言葉」という表現で少しふれました。今回は、その「ふわふわ言葉」とその反対の「ちくちく言葉」について説明させていただきます。

みなさんは、「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」という名称をお聞きになったことはありますか。「ふわふわ言葉」は「人に言われるうれしくなったり元気が出たりする言葉」です。例えば、「がんばれよ」「ありがとう」「だいじょうぶ?」などがそれにあたります。

逆に「ちくちく言葉」は「人に言われると傷ついたり元気がなくなったりする言葉」ですが、「ちくちく言葉」にどんなものがあるのか子どもたちに尋ねると、「ちくちく言葉」は「ふわふわ言葉」とは比べものにならないくらいたくさんの言葉が出ます。

では、どうして「ちくちく言葉」を使ってしまうのでしょうか。ある先生から、脳の働きを通してこんなことを教えていただきました。

脳には、感情をコントロールする働きをする「前頭前野(ぜんとうぜんや)」があります。その部分がしっかりと働いていれば自分のとる行動や言動が相手や周りの人にどのような影響を与えるのか判断できるのです。その働きが悪くなると状況に冷静になれず思ったまま行動してしまったり、「ちくちく言葉」を発したりしてしまうのです。そして、相手を思いやることもできなくなるのです。どんな時、働きが悪くなるのかというと子どもたちの一番身近なことではゲームや携帯電話を何時間もした時だそうです。その脳の状態を「ゲーム脳」というそうです。

今、相手の表情を読み取れない子どもが出てきているそうです。相手が喜んでいるのか、怒っているのか、悲しんでいるのかという表情です。たとえば、相手は、怒っているのにやにや笑っていることがあります。そして、本人は気づかず相手をさらに怒らせてしまうのです。これも「ゲーム脳」のしわざです。

前頭前野を働かせ、「ゲーム脳」にならないようにするには、ゲームは30分くらいにして、ゲームをした後は読書を30分間すると回復するそうです。心も回復するそうです。

原因はゲームだけではないと思います。そのこともご家庭で考えてみることも大切かと思います。

子どもたちだけではなく、私たち大人もいつも「ふわふわ言葉」を意識していきたいです。そして、「ふわふわ言葉」があふれる家庭、学校にしましょう。

心が変われば、態度が変わる。

態度が変われば、行動が変わる。

行動が変われば、習慣が変わる。

習慣が変われば、人格が変わる。

人格が変われば、運命が変わる。

運命が変われば、人生が変わる。